

令和4年度 第1回 我孫子市水道事業運営審議会

## 会 議 報 告

日時：令和4年11月16日(水) 午後3時～4時30分

場所：水道局庁舎3階 経営会議室

出席委員：(会長)山本 憲志郎 (副会長)今井 久美子  
岡本 健一 高橋 学  
原田 隆 福井 茂紀  
高田 康則

(名簿順、敬称略)

※委員9名中、7名が出席のため、審議会は成立した。

出席説明員：水道局長(古谷 靖)

経営課長(嶋田 繁)

工務課長(川村 憲司)

経営課主幹(遠藤 忠信)

工務課主幹(山下 大吾)

経営課課長補佐(洞毛 秀男)

事務局職員：経営課主査(加藤 正美)

経営課主任主事(柳沼 翔太)

経営課主事(中村 陽希)

会議公開の状況：公開

傍聴者：無し

### 【議事内容】

#### 1 開 会

(1) 審議委員紹介

(2) 我孫子市水道事業管理者挨拶

古谷水道局長より挨拶。

## 2 議 題

### (1) 諮問事項

山本会長の議事進行により諮問事項1件について審議を行った。

**諮問事項** 「令和5年度我孫子市水道局事業（案）」について

#### 【諮問事項の内容説明】

- ・資料1「令和5年度我孫子市水道事業会計予算編成方針」に基づき、嶋田経営課長が説明。
- ・令和5年度も「我孫子市水道事業ビジョン」、「我孫子市水道事業基本計画（以下、「基本計画」という。）」に定めた3つの基本目標、6つの基本方針に沿って事業を推進する。
- ・ただし、「基本計画」および「我孫子市水道事業経営戦略（以下、「経営戦略」という。）」については、新型コロナウイルス感染症の拡大や、国際情勢の変化に伴うコスト上昇などにより、収支予測と実績に乖離が生じていることから見直しを図る。

#### 【審議結果】

委員からの質疑応答の後、採決を行った結果、諮問事項は原案のとおりとすることで承認された。

#### 【質疑応答の内容】（凡例…◇意見・質問 ◆回答）

◇山本会長

「基本計画」5年目の段階で計画の見直しを図る理由は、コロナウイルス感染症による影響や物価上昇に対応するためという認識でよろしいか。

◆嶋田経営課長

その通りである。コストアップは収支の予測に直結するため、改めて収支予測もやり直す必要があると考えている。

◇山本会長

今まで「基本計画」に則って起債していたが、もし起債条件が悪化した場合、「基本計画」にどのような影響が現れるのか教えていただきたい。

◆嶋田経営課長

直近3年度は低金利政策の影響もあり、極めて低い利率で借入できていた。本日最新の利率のデータが届いたが、今までと比較して上昇している。さらに上昇する可能性もあることから、基本計画の見直しの中で再考する必要がある。

◇山本会長

以前の審議会にて、料金徴収のためのメーター検針を現行の1か月間隔から2か月間隔にしてはどうかとの意見が出ていたと思うが、それについて現在の検討状況を教えていただきたい。

◆嶋田経営課長

月1回検針を継続している理由は、漏水の早期発見ができるためである。一方でコストが上がっていることからコストダウンの方策も考えなければならない。検針の頻度を減らすことで、費用をどれだけ削減できるかシミュレーションする必要があると考えている。

ただし、漏水の早期発見とのバランスも必要なので、慎重に様々なパターンを検証したい。最近では受水槽の給水装置の不具合による漏水が散見される。受水槽の案件の場合、水量が大きい。局としても減免措置をとらなければならないケースもあるが、月1回検針であれば1か月で止められたものが、月2回検針になると2倍の水量となり、結果的に数十万円単位となる場合もある。引き続き、漏水の早期発見をしながらコストダウンも図れるか検討していく。

◇高橋委員

「基本計画」、「経営戦略」について、コロナの状況や世界情勢、市の人口推移等から、従来の10年単位では長く、もう少し短い期間で修正を加えるのが適切と感じる。5年目である来年度の段階で見直すことについては賛成であり、詳細についてはまた審議できればと思う。

(2) その他

諮問事項以外の内容について委員から質問を受けた。詳細は次のとおり。

◇原田委員

我孫子市消費者の会の立場で1つ意見を述べたい。

「令和3年度我孫子市水道事業決算書」に「高度浄水処理水ボトリング業務委託 契約金額1,595,000円」とあるが、見直したほうが良いのではと思う。

理由は2つあり、1つは水道水の使用促進のためである。水道水を自分でフィルタリングし、水筒に詰める、あるいはフィルター付きの水筒を携帯するなど、自分で浄化する事業に切り替えたほうが良いのではないか。

もう1つは廃プラスチック削減のためである。現在、廃プラスチックがマイクロプラスチックとなって水辺へ流出することが非常に大きな環境問題となっている。世界的な会議を見ても、ペットボトルを持ち込んでいる方は少ない。瓶などへの切り替えが進んでいると感じる。

以上の2つの理由から、ペットボトルへのボトリングはやめ、これに代わるようなフィルタリング水やフィルター付き水筒に切り替えるのはどうだろうか。

◆古谷水道局長

水道局としてもプラスチック問題については真剣に考えており、今回ボトリングする際も、委託事業者にペットボトル以外でできるか確認したところ、現状では不可との回答だった。

初めて我孫水のボトリング委託を検討した際に、飲料メーカー数社に相談したが、それらのメーカーではボトリング前後に製造ラインを2度も洗浄する必要があるため、コストアップになると聞き、飲料メーカーへの委託を断念した経緯がある。委託事業者が取り扱っているのは水のみで、ラインの洗浄が不要であり、相対的に費用を削減できている。現在ボトリング水については、東京都水道局や北千葉広域水道企業団など他の水道事業体も同じ事業者委託していると聞いている。

長期保存の面からも瓶や缶のほうが良いと思うが、それを引き受けてくれる委託先が見つからないのが現状である。

◇原田委員

私もそれができる事業者がないのは知っている。そこで、事業者でやっているボトリングに代わり、各家庭において水道水をフィルタリングし、水筒に詰めるという方法を勧めたい。そのフィルターが高価で、コストアップにはなるが、検討していただきたい。

◆古谷水道局長

普段からいつ起こるかわからない災害に備え、一般家庭でも水の備蓄をするように広報で呼び掛けている。

どのような方法でやっているかを実際に確認して、本当に良いものと感じたら、広報に掲載して市民への周知・啓発を行う。

◇岡本委員

昨今、災害の激甚化が非常に進んでいる。今年も梅雨明け6月末に気温37度を記録するなど、過去10年間になかったことが起きている。これからも異常気象が発生すると想定できる。3年前の台風15号では千葉県下が被災した。幸い我孫子地域では大きな被害は発生しなかったが、今後はどうなるかわからない。ぜひ災害への備えとして、防災訓練や給水車対応に取り組んでいただきたい。

◆嶋田経営課長

我々も災害の激甚化について非常に重く受け止めている。現段階で給水車を2台保有し、非常用発電機は各浄水場に備えている。それらを稼働させる訓練について特に力を入れて実施していく。職員の異動もあり、技術継承をしていかなければならないことから、できる限りやっていきたい。

先日の監査においても、断水を防ぐために様々な手を打つべきではないかと指摘を受けた。

全国の事業体でも新たな取り組みが研究されており、先日、研究発表会で聞いてきた。我孫子市でも取り入れられそうなことがあるとわかったので、検討していきたい。

◇原田委員

この意見を水道局に対して申し上げるのが適切かどうかはわからないが、水分野において市役所と一体になっているだろうと推測するので、この場にて申し上げる。

私の住むマンションの管理組合内において、災害に備え飲用を除いた生活用水として使用するため井戸を掘ろうという話があった。組合にて1,750,000円程予算を組んだが、使用可能になるまで5年もかかると聞いた。

このような自治会や管理組合でもって井戸を掘ることに対する助成はあるか。局の収益減にはなるが、防災に対する補助をする考えはあるか伺いたい。

◆嶋田経営課長

当件については防災井戸という位置づけになると思う。防災について自治会あるいは管理組合において考えるのはとても重要だが、井戸水の利用は水道事業に入らないので、水道使用者によって支払われている水道料金をもって補助を行うということは適当でないと考える。防災に関することは、市民安全課が窓口となっている。

◇原田委員

同じ水分野ということもあり、橋渡しをお願いしたい。

◆嶋田経営課長

市民安全課にこのような話があったと連絡する。

以上をもって質疑回答は終了した。なお、傍聴者はいなかったため、傍聴者の発言は行われず、審議会を終了した。

以上